

**ECONEX II・Plate to Plate 導入事例——池田印刷株式会社
廃液削減、省力化など、生産工程の環境改善に大きく寄与。
CSR 活動の推進力として、確かな導入効果。**

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社
平成 25 年 10 月 18 日

池田印刷株式会社(本社:東京都品川区西五反田 6-5-34、社長:池田幸寛氏)では昨年 10 月、環境への配慮と、品質・生産効率のさらなる向上のため、富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社(FFGS)の『ECONEX II』システム(サーマルプレートプロセサー『XP-1310R』、現像廃液削減装置『XR-2000』)を導入。また、社会貢献の一環として、使用済み CTP プレートのクローズドループリサイクルシステム『Plate to Plate』への参加も決めた。つねに多角的な環境対策を推進してきた同社の成果は、「グリーンプリンティング工場認定」(2009 年)、「印刷産業環境優良工場表彰(社)日本印刷産業連合会会長賞」(2012 年)、そして「2012 年度しながわ環境大賞 環境賞」など、多くの認定取得・受賞歴にも表われている。環境管理を主軸とした CSR の取り組みと、『ECONEX II』『Plate to Plate』への評価について、門貞一生産管理部長、岩佐育美製造部長・京浜島工場長に話を伺った。

■ CSR 活動は事業の持続に不可欠

池田印刷は 1953 年 11 月、東京都品川区西大崎で創業。今年 11 月でちょうど 60 周年を迎える。同社は、企画・デザインから印刷・納品までをワンストップで手がけるほか、近年はデジタルコンテンツ制作や Web サイトの企画・制作などにも事業領域を拡げている。その中で、最も得意とするのは、多色刷りの美術印刷だ。アパレルや化粧品、家具といった分野の、カタログやポスター、カレンダー、DM などで、40 年近くの実績を持つ。この分野の販促ツールは、商品画像の色再現などが消費者の購買意欲を大きく左右する要素にもなるため、極めて高い仕上がり品質が求められる。同社は長年、製版・印刷技術を磨きながらクライアントの厳しい要求に応え続けてきた。

「商品の色調や質感などで、お客さまに満足いただけるクオリティを実現するためには、データ制作・加工や製版などのプリプレスの技術力・経験値が重要になります。これは私どもが長年、大きな強みとしてきた部分でもあります。昨年秋には、組織の改編、設備の増強など、プリプレス部門のさらなる強化を図りました」(門部長)

一方、同社は、京都議定書が採択された 1997 年頃から全社を挙げて環境対策にも注力し、品質管理と環境管理を会社経営の両輪として推進。2003 年に ISO14001、翌 2004 年には ISO9001 の認証を取得し、業界初の統合マネジメントシステムを確立している。つまり、池田印刷では品質管理と環境対策を別々のものとしてではなく、CSR の視点から一つの大きな課題として捉えて取り組んでいる。その陣頭指揮を執り、また全日本印刷工業組合連合会の CSR 推進専門委員会の委員長を務める池田社長は、印刷会社としてのサステナビリティ(持続可能性)について、「私たちは、人と社会と自然環境がバランスよく互いに持続可能なものとなるよう努めることによって、自らの事業の持続可能性を確かなものにできる」と語る。この考え方を基に推進している同社の CSR 活動は、業界内のみならず、行政

などからも高い評価を受けている。

「いま印刷会社として何ができるかを自ら問い、そこから導き出されたことを具体的な行動に移すことが重要だと考えます。当社は『しながわ CSR 推進協議会』など、社会・地域の中で業種の枠を超えた活動にも積極的に参加していますが、その理由はまさにそこにあるのです」（門部長）

■メーカーとしての環境対応姿勢に共感

こうして、幅広い視点で CSR 活動を進める中で、生産工程においては、昨年 10 月、プリプレス部門と同時に刷版工程の設備も見直しを図った。新設した CTP の処理システムに『ECONEX II』を採用した理由について、門部長はこう語る。

「環境に配慮しながら品質や生産効率も追求していくという私どもの考え方に、『ECONEX II』のコンセプトはぴったりマッチしていますし、各機器の環境効果についても以前から注目していたので、今回の導入に迷いはありませんでした」

また、岩佐工場長は、富士フィルムの「製品の信頼性」と「企業としての姿勢」も決め手になったと述べる。

「版材は以前から一貫して富士フィルム製品を使用していますが、品質が安定しており、非常に高い信頼性を感じています。ですから、“富士フィルムなら安心”という思いはありましたね。また、印刷資材で初となる CFP 表示や『Plate to Plate』の仕組構築などメーカーとしての積極的な環境への取り組み姿勢にも共感できるものがあり、そんな企業への信頼感が『ECONEX II』導入の大きなポイントでした。実際に運用した実感としても、環境貢献はもちろん、生産性向上、品質安定化にも大きく寄与する設備だと感じています」

導入後の効果で、岩佐工場長がとくに高く評価するのが、歴然とした廃液削減効果。環境負荷削減に加え、現場の省力化にもつながっているという。

「『XR-2000』を導入した昨年 10 月から現在までの 11 カ月間で、まだ 2 回しか廃液を回収業者に出していません。導入後すぐにこれだけの効果が実感できるというのはすばらしいと思います。また、『XP-1310R』は、処理液が非常に長寿命で、それだけ廃液も少なく、液交換などのメンテナンスの負担がかからないのもありがたいですね」（岩佐工場長）

■『Plate to Plate』は有効な情報セキュリティ対策にも

さらに、同社は富士フィルムの『Plate to Plate』によるプレートリサイクルも近く開始する。『Plate to Plate』は、使用済みのプレートから高純度のアルミニウムを生成し、新規プレート製造に再利用するシステムで、これにより、プレートのライフサイクル全体で約 60%の CO2 削減が可能になる。岩佐工場長は、「ユーザーにとっては、現場の作業フローなどは従来のまま、環境負荷削減に貢献できる」と、同システムの意義について語る。さらに、門部長はセキュリティ面のメリットにも触れ、次のように述べた。

「当社では、量はそれほど多くないものの個人情報も取り扱うことがあり、その情報の入った版が、リサイクルに出した後、確実に処理されているかということは重要な問題です。情報セキュリティは、CSR の大きな要素でもあります。その点、『Plate to Plate』は処理経路が明確に把握できるので安心ですね」

環境対応にとどまらず、社会貢献をさまざまな側面から考え、実践し続ける池田印刷。

今後の CSR の取り組み姿勢について、門部長は次のように語った。

「環境に配慮しながら良い製品を作り出していくことは、もはや当たり前のこと。そのうえで、われわれは社会にどのような貢献ができるかを考えなければいけないと思います。押し付けではなく、社員一人ひとりがつねにアンテナを張りながら自主的に考え、社会の動きに先んじて実践していくことが大切。この姿勢は、すでに“社風”として根付いてきていると感じています」